

あるから迫力が生まれます。

**鳴海** 大きなホールでも席が遠いと、どうしても平面的に見えがちですけど、この間近さだと奥行きが感じられますね。

**市長** 立体的に見えるというわけですね。鳴海さんが劇団「第七劇場」を設立されたのは、大学生の時だったと伺っております。

**鳴海** 好きだった映画の勉強がしたくて北海道紋別市から早稲田大学に入りました。まずは、演劇から学ぶ必要があると思い学生劇団に入って勉強を始めたら、はまってしまい演劇をずっとやることになってしまいました。

**市長** そして今では、その演劇活動は国内、さらに海外にも広がった。

**鳴海** うれしいです。演劇は生身の表現なので。

**市長** 表現が言葉の壁を越えるのですね。

**鳴海** はい、まさにそこに挑戦したいという思いがあって、海外に行く決めて活動していました。その結果、これまで韓国、ドイツ、フランス、台湾の6都市で上演させていただきました。

**市長** 以前、フランスに滞在されたご経験もおありなのですね。

**鳴海** 2012年の秋から1年間、研修でパリにいました。

**市長** いかがでしたか、パリは。

**鳴海** 文化の集まる場所としては、やはりヨーロッパ随一だと思います。

**市長** フランスから帰国された後は、東京が拠点だったはずなのに、今やもう活動の拠点は津市の美里ですね。演出家、芸術監督としての鳴海さんが地方から芸術を創造していくことについては、市民の方々の関心も深いと思われそうですので、そのあたりをお話いただけますか。

**鳴海** 私が演劇の先生として師事していた演出家の鈴木忠志さんが富山県の利賀村(現南砺市)の山奥で芸術活動をされていて。

**市長** 利賀村も演劇で有名ですよ。

**鳴海** 良い作品を創るためには都市部である必要は全くないと学びました。陶芸家の窯のように、画家のアトリエのように、演劇に関わる者にも、城が必要です。東京で、これぐらいの広さで活動を継続していくことを考えると、コストも高くリスクも多い。そうすると、芸術家の特性によっては創作に適した場所は、東京ではないんじゃないかと思うようになりました。それで、ご縁があって、美里を紹介していただき



ました。

**市長** 地方でも大丈夫、むしろ地方の方がいいというわけですね。でも、数ある地方の中から、どうして美里だったのですか。

**鳴海** 地方の特色というのは、自然だったり、特産品だったりいろいろあると思いますが、私はソフト、人間だと思います。

**市長** なるほど、人間ですか。

**鳴海** 例えば、文化に理解のある首長さんがいるとか、芸術家が多い地域であるとか、他所から入ってくる人に対して寛容であるとか、地域のために熱心に活動している文化人がいるとか、ソフトによって地域のオリジナリティーが出てくる。この美里は、そういう文化人が多かったのです。

**市長** ありがたいことです。多くの芸術家、文化人が、活動していける場所ということは、都市としての幅や奥行き、風格を表す要素の一つですよ。ただ、ここへ公演を見に来ようとしたとき、少し不便だという声はありませんか。

**市長** 確かに不便な部分もありますが、不便さを味わった上で芸術体験をすることも面白いと思

**鳴海** 確かに不便な部分もありますが、不便さを味わった上で芸術体験をすることも面白いと思

## 良い作品を生み出すのに都市部である必要はない

## KOHEI NARUMI

劇団「第七劇場」代表・演出家

### 鳴海 康平さん

1979年10月12日生まれ、北海道紋別市出身。Theatre de Belleville芸術監督。早稲田大学第一文学部在籍中の1999年に劇団を設立。これまで国内20都市、海外(フランス・ドイツ・韓国・台湾)6都市で作品を上演。2014年、津市美里町に活動拠点を移設。

